



第十七回 名胡桃城

～秀吉による天下統一のきっかけになった城～

今回は、上州の利根川上流（現群馬県みなかみ町）に位置する名胡桃城をご紹介します。

この城を知る人は多くないでしょうが、群雄割拠の戦国時代を終わらせるきっかけとなった戦国史上重要な城で、この城のことを書くと、これまでに上げてきた幾つかの城の繋がりが見えてきます。

諸勢力の沼田争奪戦

名胡桃城は1500年前後に上州沼田城の支城として築かれました。

名胡桃城、沼田城がある利根沼田地域は、関東平野最北の要衝の地で、1569年以降、越後の上杉謙信の支配下にありました。しかし、1578年に謙信が急死して養子の景勝と景虎の相続争いが起こると、利根沼田地域の大半が、景虎を支援する相模の北条氏に占領されます。

上杉氏と北条氏の両家に接する甲斐の武田氏は、この相続争いの開始当初、北条氏と同盟を結んでいた関係で景虎支援に回りますが、その後の景勝の工作で景勝側に寝返ります。結果、武田氏は北条氏と敵対することになり、利根沼田地域の攻略に乗り出すことになります。

ここで登場するのが、第15回「上田城」で紹介した真田昌幸です。当時武田家の家臣だった昌幸は、沼田城の北西に位置する名胡桃城を改修して沼田城攻略の足掛かりとし、そこから戦闘と調略を織り交ぜて最終的に1580年に沼田城を無血開城させます。その後も昌幸は権謀術数。時に味方まで騙して利根沼田地域を北条氏から守りました。

真田対北条の沼田攻防戦

1582年に武田氏が滅亡すると昌幸は独立し、諸勢力の間を泳いだ末に徳川家康に従属します。その後、家康から利根沼田地域を北条氏に割譲するように命じられたのが発端で、昌幸が家康と手切れして1585年に第一次上田合戦が起こったことは、第15回でご紹介したとおりです。

この第一次上田合戦では、とかく上田城と昌幸が注目されがちですが、この合戦と相前後して沼田城、名胡桃城にも家康の上田攻めに呼応した北条勢3万が押し寄せており、特筆すべき合戦が起こっています。

このとき沼田城を預かっていたのは昌幸の叔父、矢沢頼綱で、彼の智謀も昌幸同様に冴えわたります。野戦で北条勢の先鋒を誘き出し、伏兵や名胡桃城の鈴木重則と連携してこれを挟撃し、いきり立った北条本隊の先手を巧みに沼田城内に誘い込んで包圍殲滅。北条方の戦意を挫き、ついには撤退させました。

窮地を脱した真田氏

1585年の上田城、沼田城、名胡桃城をめぐる一連の合戦は真田方の完全勝利に終わりました。しかし、家康や北条氏という大勢力を敵に回して真田氏が安泰であろうはずがありません。それでも真田氏が生き残れたのは、幸運にも恵まれていたからです。

それというのも、家康は、1584年の小牧長久手の戦いから第一次上田合戦のころまで、西の羽柴秀吉と五分に渡り合っていました。第一次上田合戦の後に重臣の石川数正が秀吉の下に出奔するに及んで真田氏に構っているどころではなくなり、上田から手を引いたわけです。

この数正が秀吉から賜った地が松本で、ここに彼が築いたのが松本城であることは、第11回の「松本城」でご紹介したとおりです。

秀吉による沼田分割統治の裁定

家康が数正の出奔の痛手も手伝って徐々に秀吉に懐柔され、1586年に秀吉に臣従すると、北条氏も秀吉の勢力を無視することができず、秀吉への臣従の条件交渉がなされます。北条氏の臣従の条件は利根沼田地域で、真田氏からの割譲を求めます。これに対して昌幸は、「名胡桃は父祖の墳墓の地」などと大嘘をついて、とりあえず利根沼田全域の割譲は防ごうとします。

秀吉の裁定は、利根沼田地域のうち利根川左岸3分の2は北条領、右岸3分の1は真田領とするもので、利根沼田地域の完全領有を目指す北条にとっては不満の残るものでした。

名胡桃事件

この時期の北条氏は、秀吉に臣従するか否かの岐路に立たされ、家中において穏健派と主戦派の意見がまとまらず、結論を先延ばしにしている状態でした。そんな中で事件が起こります。

北条氏から沼田城を預かっていた猪俣邦憲という城代は、名胡桃城を守る鈴木重則の配下を調略し、重則を信州上田に召還するという偽の昌幸の書状を重則に送らせます。信用していた配下から受け取った書状のため、重則は昌幸のいる上田に向かってしまいます。途中、彼は岩櫃城にいた矢沢頼綱に面会して異変に気付き、すぐにとって返しますが、時既に遅く、城は邦憲に奪取された後でした。重則は頼綱から借りた兵で城の奪還を試みますが叶わず、責任を取って割腹して果てます。時に1589年のことでした。

このとき、邦憲が主の北条氏からの指示で動いたのか、それとも独断で行動したのかは今となってはわかりません。現在でも、様々な説があり、その主なところは、北条を潰したい秀吉の陰謀説、利根川左岸を取り戻したい昌幸の陰謀説、北条主戦派の積極的攻撃説ですが、歴史ファン達はそれぞれの想像を巡らす格好の題材にしています。

秀吉の小田原攻め

さて、名胡桃事件に怒ったのは秀吉です。利根沼田地域帰属問題ではある程度北条氏の言い分を聴いてやっているのに、いっこうに臣従せず、さらに、1587年に秀吉が東国に向けて発した惣無事令（大名間の私闘を禁じる法令）に楯突くことをしたわけですから、とうとう秀吉も堪忍袋の緒が切れて、北条氏に宣戦布告をします。そして、北条氏の本拠地である相模の小田原城に全国の兵を集結させました。

ここに、秀吉による天下統一の総仕上げである小田原の役が開始されることになるわけですが、その詳細は第9回の「小田原城」に書かれています。また、この役に関係して、北条方の西の最重要拠点である山中城についても、第13回の「これが戦後期の山城だ」に記載してありますので、ご興味のある方はどうぞ。

名胡桃城のその後

小田原の役で秀吉が勝利して北条氏が滅亡すると、利根川左岸は真田氏に返されます。もともと沼田城の攻略のために改修された名胡桃城ですから、利根沼田地域の安定とともにその存在意義をなくし、江戸時代の一国一城令によって廃城となりました。

早い時期の廃城が幸いしたのか、現在でも戦国当時の遺構が良く残っています。そして、旧月夜野町（現みななみ町）の教育委員会が1992～2000年にかけて発掘、調査をしたうえで良く整備しているので、国道17号に隣接していることも手伝って気軽に見に行くことができます。



名胡桃城址